

属契約を結んでくれたのです。そのすぐ後にロッシーニのアリア集も録音したので、私のキャリアはデッカの元、ロッシーニで始まりました。ですから、デッカ専属30周年、そしてロッシーニ没後150周年の今年、30年間のロッシーニ・レパートリーをボックスセットにしたのです」

ロッシーニの原曲にサルヴァトーレ・シャリーノがオーケストレーションを施した《ジョヴァンナ・ダルコ》という珍しい曲も入っているが、「昔リッカルド・シャイーがどうしても録音したいと言って録ったものの、現在まで未発表だった」というお宝のようだ。

10月にはデッカ傘下のMentored by BARTOLIレーベル第1弾、ハビエル・カマレーナの『コントラバンディスタ』が発売されるが、選曲からミキシング、そしてデュエットまですべてをバルトリが手掛けている。中でもスペインの伝説的テノール、マスエル・ガルシアの曲は難易度が非常に高く、「これを歌えるのはハビエルしかいない」とバルトリが推すと、「彼の曲を認知させる使命を感じる」とカマレーナは襟を正す。

11月には待望のソロ・アルバムがリリースされる。毎回テーマを決めてCDを発表するバルトリのスタイルが、ブレイクしたヴィヴァルディ・アルバムから20年弱を経て、その原点を振り返る意味合いを持つという。バルトリとデッカの蜜月は30年を経て、まだまだ続きそうだ。

(中東生)

CD チェチーリア・バルトリ デッカ・デビュー30周年記念ボックス

9月21日チェチーリア・バルトリのデッカ在籍30周年を記念して、豪華な「デッカ録音30周年&ロッシーニ没後150周年記念ボックス」[Decca-4833936(海外盤)]がリリースされた。30年前を振り返り、バルトリはこう語った。「本当に幸運な出会いでした。19歳で《セビリヤの理髪師》をローマで歌ってデビューしてから(9歳で《トスカ》の羊飼いを歌ったのを除く)、色々なオーディションに挑戦していた時、丁度デッカのプロデューサーだったクリストファー・ライバーンが若いロジーナを探していて、偶然私のオーディションを聴き、ロジーナに抜擢してくれたのです。フィガロ役はレオ・ヌッチでした。そのCDで、録音された私の声がどのように響くかをテストした後、専